

編集後記

今号の特集としては、昨夏、国際図書館連盟（IFLA：International Federation of Library Associations）の年次大会が韓国で開かれ、全国学校図書館協議会（全国SLA）が北欧への学校図書館見学ツアーを開催したことを受け、秋に本学の司書課程資料室で参加者による小さな報告会を開催したときの報告者と参加者に原稿を寄せていただいたものをまとめた。そして、本学に学んだ韓国詩人ユン・ドンジュについてのご著書などもある、2007年春に本学に着任した宇治郷毅先生から、韓国の図書館について寄稿していただき、特集を補完・充実させた。昨年のも「アメリカの大学図書館見学記」には読後感等を送ってくださった方がおられた。ぜひ今号の特集もお読みいただいて、ご意見をお寄せください。

ところで、昨年度に続いて、今号にも、図書館現場演習報告で、すべての実習のレポートを掲載できなかったのも、ここで謝っておきたい。大変申し訳ありません。2006年度は図書館演習Ⅱの担当者がまた交代し、注意していたつもりが、教員間の連絡がうまくいかず、レポートの本誌掲載に一部学生の協力が得られなかった。来年度以降は、学生への執筆依頼にあたっては関係者の間でよく話し確認し、すべての図書館のレポートを掲載したいと思っている。実習受け入れ館の方々には、今後とも変わらぬご指導を賜りたく、お願いいたします。

今年も、本学から数名が司書として巣立っていった。皆、一人でどんどん勉強するタイプで、私などはほとんど彼女たちの就職の支援はしていないのだが、司書課程・司書教諭課程の各科目の授業や実習の中で、何らか学んできてくれていたことと思う。やはり、司書課程・司書教諭課程を担当する者として、現場に人材を送り出すことは何よりも嬉しい。現場での経験を、また母校を訪れ、何らかの形で還元してくれたらと思っている。今年就職したのは、私が把握している限りでだが、本誌に合格体験記を寄せてくれた2名の他、一昨年の卒業生の山科文加子さん（岐阜県司書）と専門図書館や公共図書館で契約職員等を経験されてきた清水七菜さん（滋賀県司書）がいる。

卒業と同時に正規の司書の採用試験に受かることはとても難しいけれど、彼女たちのように志を持ち続け、数年後に晴れて正規職員として就職という先輩がいることは、後輩たちにとても夢を与えるだろうと思う。

最後になったが、本年報の別冊『同志社図書館情報学』には、本学嘱託講師の3名の先生方の玉稿を収載することができた。お忙しい中で、原稿をお寄せくださった漢那憲治先生、中島幸子先生、中里隆憲先生に、感謝いたします。

(文責・中村百合子)